

講演 「子どもの姿の読み取り：育みたい資質・能力と経験をつなぐ」

講師 帝塚山大学 教授 清水 益治氏

1. 育みたい資質・能力について

3つの資質・能力

知識及び技能の基礎

遊びや生活の中で豊かな経験を通じて何を感じたり、何に気付いたり、何が分かったり、
何ができるようになるのか

(小学校でやる事の基礎を先取りしようとした平成以前の幼児教育に近い部分)

思考力、判断力、表現力等の基礎

遊びや生活の中で、気付いたこと、できるようになったことなども使い
ながら、どう考えたり、試したり、工夫したり、表現したりするか

(新しく入ってきた部分)

学びに向かう力・人間性等

心情・意欲・態度が育つ中で、いかによりよい生活を営むか

(「できる・できない」ではなく平成の幼児教育で大切にしてきた部分)



～3つの資質・能力が教育要領・保育指針第1章に

記載されていることの意味は～

3つの資質・能力は学校教育(小・中・高・大学)全体に一貫して
繋がっていく能力であり、幼児教育がその基礎となる。

1章に記述されていることは、一番大切であるという位置づけ。

今後5領域を超えて
3つの資質・能力を伸ば
していく可能性も

～2章のねらい及び内容と

リンクされていることの意味～

今までの指針・要領と一貫性をもたせている。
内容を経験することには変わりはないが、そのこ
とに加えて3つの資質・能力の視点が入る。
経験の中にどのような資質・能力が育まれている
かをしっかりと見ていく必要がある。

～「豊かな経験」「一体的に育むよう努める」等
の表現の意味～

遊びの中で経験が豊かになるように考えていく。
その中で、3つの資質・能力をバランス良く
総合的に育んでいかななくてはならない。

☆幼児教育無償化になったことの意味

無償化となり幼児教育に税金を使う
ことで国としてしっかり行っていく
教育となる(義務教育に近づく)

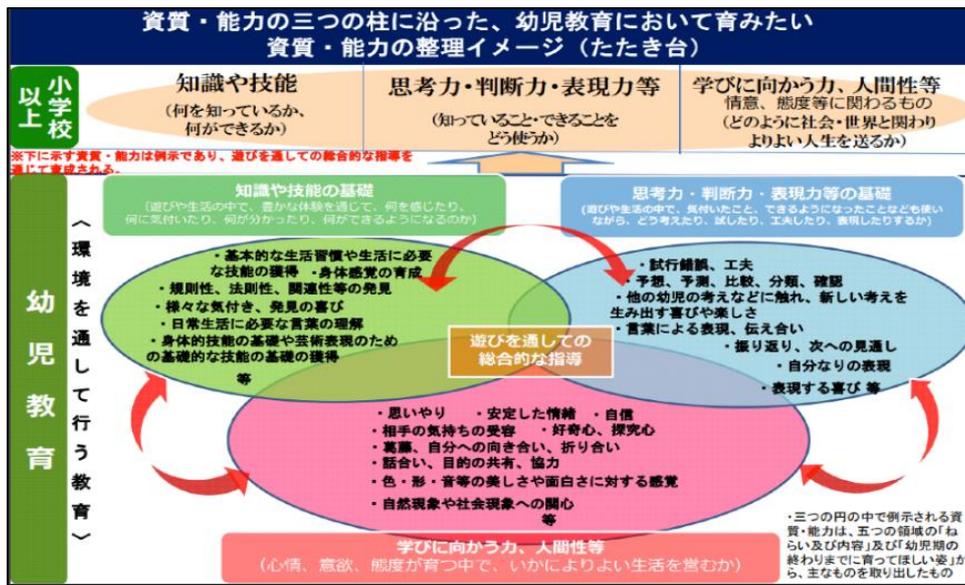


指針・要領のねらい、内容に記述されていること
をもれおちなく経験させていく必要がある。

子どもの経験の保障

☆10年に1回程度要領、指針は改訂される。今回の改訂においても5領域は大きく変わっていない。
少し変わったその部分に着目していくことで今後の改訂を理解しやすくなる。

2. 資質・能力の具体的な姿



3. 活動全体を読み解く

DVD を視聴し、その中から、5 領域

3 つの資質・能力の資料に基づき、

どのような力が育まれているかを

個人で考えワークシートに記入する。

その後、各グループで話し合いを

行い意見をまとめていく。



グループで話し合った
内容や気づきを発表。



3 つの資質・能力の
どんな力に繋がるかな

参加者の声・気づき

・ お米が膨らむことが、「規則性、法則性、関連性の基礎」であったり、友だちの分までままごとの食器を並べていることが「思いやり」に繋がるなど、人の意見を聞くことで自分だけでは気づくことのできなかった育まれている力に気づくことができ、とても良い学びの時となった。

・ 5 領域や 3 つの資質・能力という観点で子どもたちの遊びの様子を見ると、普段何気なく生活している中で改めて子どもたちは多くの価値ある経験をしていることに気づかされた。 など

【清水先生より】

・ 話し合いをグループで行うことに大きな意味がある。現代は唯一の正解はなく、話し合いで何でも決めていく時代。話し合いの中で共通理解や工夫が生まれる。子どもだけでなく、園内においても話し合いの場を上手く持っていくことが大切。そうすることが工夫に繋がる。

・ 日々の遊びを振り返り、その遊びの中に 5 領域・3 つの資質・能力のどんな力が育まれているかを読み解いていく延長線上に次の指導計画がある。どんな力が育まれているのかを保育者自身が見つけれないと子どもは身につけてはいない。この様に保育を振り返り 5 領域をしっかりと経験させられるように、また 3 つの資質・能力を高めることができるようにと新たに指導計画をたてていくことが今、幼児教育に求められているカリキュラム・マネジメント。

作成者 幼児教育アドバイザー 辻田 真由美